

「需要の状況」の見直しについて

研究会報告書 (H24.2)

- これまで本統計においては、～(中略)～ 売上高の変化の背景にあるサービスの量的変化と質的变化については把握できていなかった。
- ただし、価格については、同一の産業であっても個々のサービス内容によって異なり、その全体の動きを把握することが難しく一律の把握が難しいことに留意する必要がある、生産量については、産業ごとにサービスの特性に応じて単位が異なることから、産業間で同一の基準で把握できるように、需要の増減状況について、需要動向(DI)として把握することが考えられる。
- こうした状況を勘案し、サービス産業の売上高の動向に加え、サービスの需要動向(前年同月比)についても把握することで、サービス産業の活動状況を的確に把握することとする。

H25.1月から「需要の状況」を新設し、
「需要状況DI」の公表を開始



「需要の状況」の把握方法

記入のしかた (事業所用を一部抜粋)

1. 貴事業所全体の月間売上高(収入額)等 税抜き 原則税込で記入してください。ただし、会計処理上税込で記入することが困難な場合は税抜きで記入し、□内にレを記入してください。

| | | | |
|---|--------------------------------------|---|--|
| 1.(1) 売上高(収入額) <small>※金額は、千円未満を四捨五入してください。 ※季節的要因等によって一時的に売上高がない場合は売上高を「0」とし備考欄にその状況について記入してください。</small> | | 1.(2) 主要なサービスの需要の状況(前年同月と比較した状況) <small>貴事業所の主要なサービスの需要について</small> | <small>〔備考欄：主要なサービスについて〕 貴事業所の主要なサービスについて、前月と比べて大きな変化があった場合は、その状況を記入してください。主要なサービスの価格(単価)の変動について記入する場合は、下記の選択肢を特記事項の例としてご利用ください。</small> |
| 前月 | 百億 億 百万 万 □□□, □□□ 5, 0 0 0, 000円 | (該当する番号に○を付けてください) | <small>左の欄の回答について「1 増加」又は「2 減少」とした場合はその具体的な理由を記入してください。</small> 〔前年同月と比べ需要が増加/減少した理由〕 季節限定メニューである「△△セット」の値下げキャンペーンが好評のため |
| 今月 | □□□, □□□ 6, 1 0 0, 000円 | ① 増加した ② 減少した ③ 特段の変化はない ④ わからない | <small>〔備考欄：主要なサービスについて〕</small> 今月から営業時間を2時間延長 主要なサービス <input type="checkbox"/> △△セット <input checked="" type="checkbox"/> について、 ① 今月 価格(単価)が上がった ② 今月 価格(単価)が下がった |

1.(2) 主要なサービスの需要の状況(前年同月と比較した状況)

- 「主要なサービス」とは、貴事業所が行っている事業活動において、売上高や利益が最も大きいなど、貴事業所が考える中核的なサービスのことをいいます。
- 「1.(2) 主要なサービスの需要の状況」には、該当する番号に○印を付けてください。
- 貴事業所が行っている事業活動の「主要なサービスの需要」については、主要なサービスの需要量(例えば、利用者数、契約数など)を前年同月と比較し、番号1~4のうち該当する状況に○を付けてください。また、「1 増加した」又は「2 減少した」を選択した場合は、その具体的な理由を右側の欄に記入してください。

〔備考欄：主要なサービスについて〕

- 前月に比べて大きな変化があった場合は、その状況を記入してください。また、主要なサービスの価格(単価)の変動があった場合は、記入してください。



「需要の状況」の回答状況①

回答状況

- 「需要の状況」の記入率は、平成25年の平均で85%程度となっており、他の調査事項に比べて低い

月次調査の調査事項の記入率（平成25年平均、%）

| | 企業 | 事業所 |
|--------|------|------|
| 月間売上高 | 96.3 | 93.1 |
| 需要の状況 | 85.3 | 85.9 |
| 事業従事者数 | 99.4 | 99.4 |

※「記入率 = 記入のあった客体数 / 調査票の提出のあった客体数(N)」によって算出したもの。

Nは25年12月時点。

※ 企業等調査の「月間売上高」は「合計」、「需要の状況」は事業活動1～4の平均値。

※ 「事業従事者数」は「総数」の値。

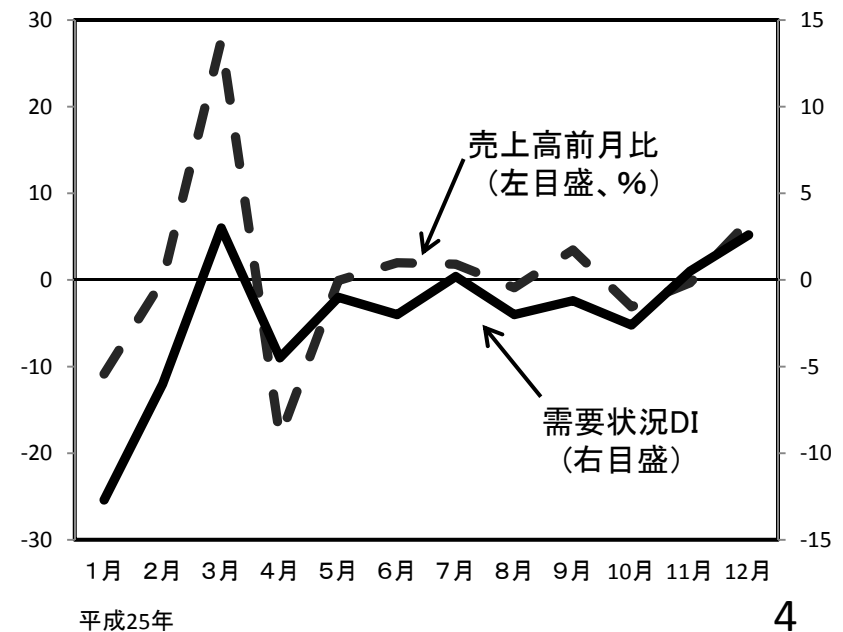
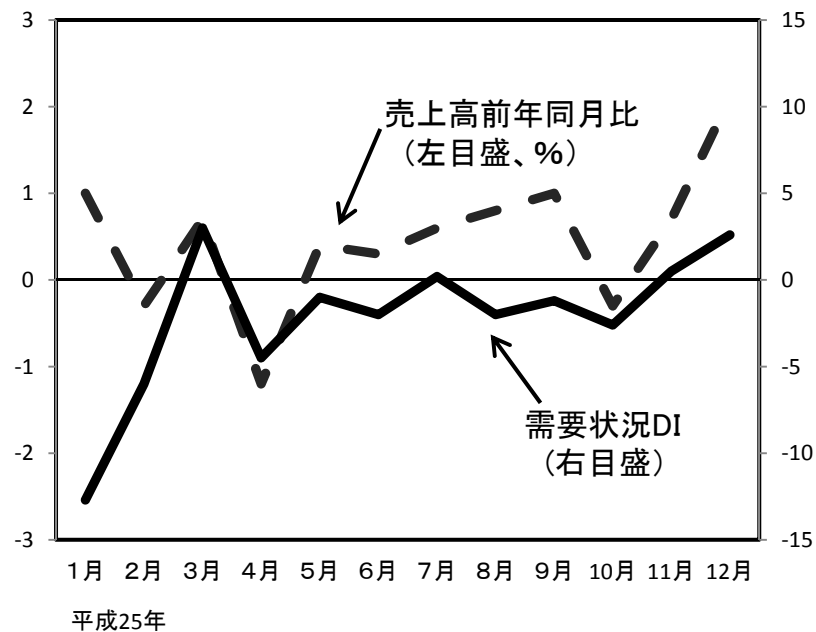


「需要の状況」の回答状況②

結果の妥当性

- 「需要状況DI」の動きは、「売上高前年同月比」の動きと大きく異なる

需要状況DIと売上高の動向（平成25年、サービス産業計）



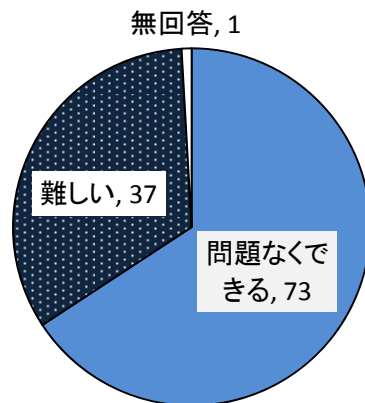


「需要の状況」の回答状況③

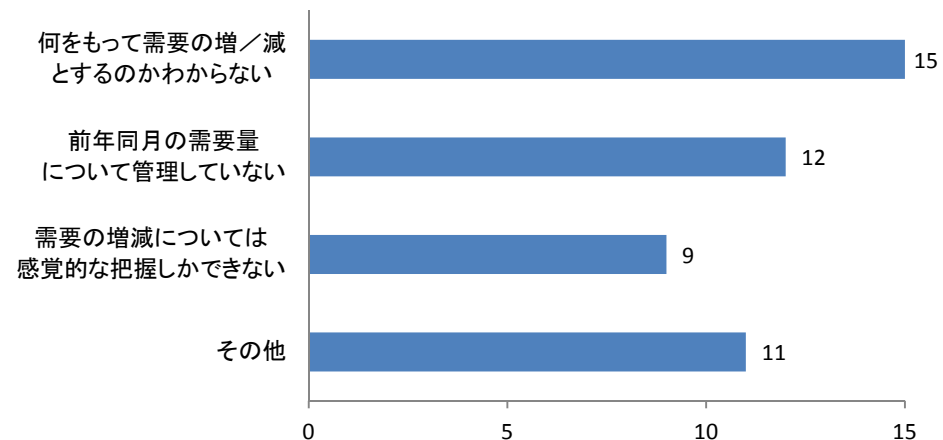
企業ヒアリング (平成26年11月実施)

- ヒアリング回答企業の3割強が「回答が難しい」
- 「何をもって需要の増／減とするのかわからない」、「前年同月の需要量を管理していない」の他、「具体的に〇%ならば需要増と考えるのか不明」「単月の契約件数は需要とは呼べない」「感覚的な回答しかできない」「何の指標を基準に需要を判断すればよいか分からない」等の意見もあり
- サービスの「需要」を、売上高や受注額等によって判断している企業も多数

「需要の状況」の回答



「需要の状況」の回答が難しい理由(複数回答)



(参考) 類似の統計

○日本銀行「全国企業短期経済観測調査（短観）」：業況判断DI

- ・ 四半期調査。概ね、四半期の最終月に調査を行い翌月初に結果を公表。
- ・ 『貴社の業況』として、「貴社の収益を中心とした、業況についての全般的な判断」を、『最近』と『先行き』ごとに調査。(1. 良い、2. さほど良くない、3. 悪い)
- ・ 結果は、業況判断DIとして、業種別、企業規模別で公表。
もっとも注目されるのは、製造業/非製造業別・大企業のDI(最近)。

○経済産業省「第3次産業活動指数」

- ・ 月次の加工統計。翌々月の中旬に結果を公表。
総合指数／業種別指数、原系列／季節調整系列を公表。
- ・ 個別業種のサービスの生産活動を表す指数系列を、基準年の産業連関表による付加価値額をウェイトにして加重平均により算出。
- ・ 指数系列の例
電気業：発受電電力量
受注ソフトウェア：情報サービス業売上高（受注ソフトウェア）を「企業向けサービス価格指数」でデフレート
- ・ 結果は、「月例経済報告」等で利用。



「需要の状況」の見直し案

経緯

- 売上高の背景にあるサービスの量的変化の把握について、生産量を産業ごとに把握することは困難なため、代替措置として需要の増減状況を需要動向(DI)として把握することとした
- ※ DIとは、景気局面の判断や、予測と景気転換点(山・谷)の判定に利用される景気動向指数のひとつ。業況感や、景況感といった明確に数値化しにくい対象を、比率化することで景況の先行きを判定する。(大辞林より)

考察

- 「需要の状況」の回答状況から、他の項目に比べ客体の記入率が低く、記入がしにくい状況
- 記入内容を見ても、DIの動きは売上高を前月と比べた感覚的な回答となっている模様
- 企業ヒアリングの結果から、「量」ベースの「需要の状況」を的確に回答いただくことは、困難な見込み
- e-Statにおける「需要の状況」の結果表のダウンロード数は他の項目に比べ低い状況

見直し案

- 現行の方法による「需要の状況」の把握及び需要状況DIの公表は、29年1月から取りやめ
- 備考欄(状況変化等の自由記述欄)については、調査票の審査に活用する観点から、継続